2002 年 4 月 23 日　第三種郵便物認可（毎月 3 回 5 の日発行）
2019 年 9 月 11 日発行　ＳＳＫＷ増刊通巻第 4901 号
２０１９年　9月　　７７号

ＳＳＫＷ

ダルク女性ハウス

ニューズレター

イラスト　あつこ

■子プロにお金がありません■　　はるえ

仲間たちに会うために刑務所に通うようになってもう 30 年が経つ、拘置所や刑務所での待ち時間は長い、待合室で出会う家族たちは様々な表情をしている、そんな中で子どもたちは、うつむきがちな大人たちの、顔をあげさせ、苦笑させたり、自分の家族の大変さを忘れてこの子はどうなるのかと、別な家族の大きな不幸を思い起こさせたりする。

刑務所の中の時の流れは遅く、外の時の流れは過酷に早い。受刑者の子どもたちに社会の目が向けられることは少なかった、私たちは子育て支援をはじめて 18 年目を迎えようとしている。

引き続き、みなさまのご理解と支援をお願いします。

―塀の外の子どもたち―　　さとう

「収監されている娘に会いに行ってほしい」そう依頼を受けてから 4 か月が経ったある夏の日、私はもう一名のスタッフとともに、初めて刑務所を訪れました。

2002 年 4 月 23 日　第三種郵便物認可（毎月 3 回 5 の日発行）
2019 年 9 月 11 日発行　ＳＳＫＷ増刊通巻第 4901 号

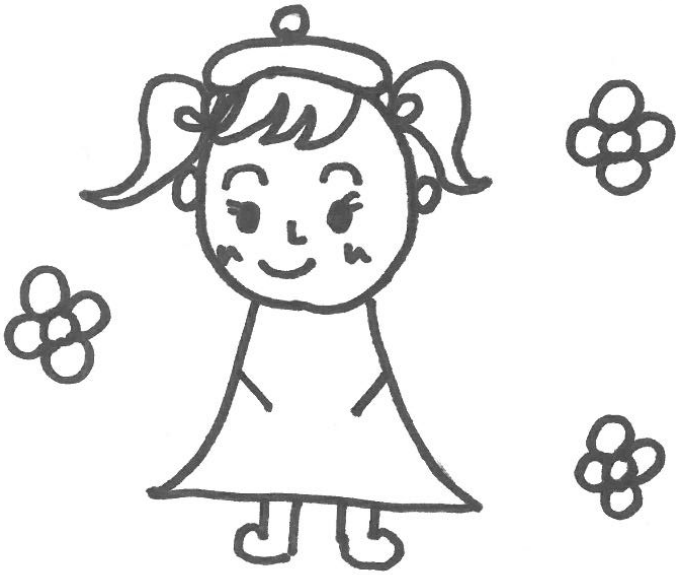
自宅を出てから３時間。のどかな、しかし殺風景なその場所に到着し、私は自分が看護学生時代に寮生活を送った場所を思い出していました。白い簡素な建物にまぶしいほどに照り付ける陽射し。その頃の息苦しさまでがよみがえってくるようでした。

面会の申請を済ませ、待ち合い用の小さな建物に通された私たちは、今から出会う女性に必要なメッセージは何かと、考えを巡らせていました。

すると若いお父さんが小脇に 1～2 歳くらいの女の子を抱え、建物に入ってきました。もうずいぶん前から待っていたのか、面会者用ロッカーの中から荷物を出し入れしています。痩せて小さなその子どもは目が合うと、こちらに手を差し伸べてきました。初めて会う私に抱っこしてとでもいうように。驚いていると、また別の家族が入ってきました。おじいちゃんと孫の３人組で、お兄ちゃんは中学生くらい、弟は３～４歳くらいのようでした。お兄ちゃんが丸々と太っていること、それとは逆に下の子が痩せていることが気になりました。この家族も待ちくたびれている様子で、建物を出たり入ったりしていました。下の子は退屈しており、狭い部屋の中を走って行ったり来たりを繰り返しています。そのうちゴンという大きな音がして、転んで床に頭を打ち付けたことがわかりました。激しく泣く弟をお兄ちゃんが仕方なくあやしますが、泣き止みません。その場にいた人たちは静まりかえっています。

他にも一人で面会を待っていた男性が呼ばれ、そのあと小さな娘を抱えたお父さん、しばらく経っておじいちゃんと兄弟の家族が呼ばれました。けれども下の子の名前を面会申請書に書いていなかったことで戻され、そこからさらに時間が経ってようやく面会にこぎつけたようでした。私たちも待ち始めてから２時間近く経ってようやく番号が呼ばれました。

初めて会ったその女性は、私たちの来訪に涙を流していました。しばらく話したあと、両親や子どもの面会について尋ねると、来るには来るが、気の毒だからもう来なくていいと言います。私は先ほど見た待ち合い室での家族の様子を思い浮かべました。子連れで遠路はるばるやってくること、陰鬱な部屋で長く待つこと、それらが家族にとっては苦しいことであることがよく分かりました。受刑者は、家族の疲れ果てうんざりした様子を見て一層申し訳ない気持ちになり、もう来なくていいと思ってしまうのでしょう。



面会の２０分が過ぎ、私たちは待ち合い室に戻りました。そこには新たに外国人のカップルがいるだけで、あの小さな女の子の姿もあの兄弟の姿も、もうありません。

あの子たちが、いま笑っているのか、泣いているのか、そんなことが日常に戻った今も気になっています。

2002 年 4 月 23 日　第三種郵便物認可（毎月 3 回 5 の日発行）
2019 年 9 月 11 日発行　ＳＳＫＷ増刊通巻第 4901 号

■思いがけない大病■

えいこ

私は、今年でクリーン 14 年を迎えました。２年前に、大きな病気を２つ経験しました。１つはリウマチです。

春ごろ、手に今までに経験したことのないほどの痛みを感じで、グローブみたいに腫れました。病院をいくつか回って、リウマチと診断されました。

同じころ、区で受けたがん検診の再検査の通知が来て、すぐに、大学病院に行き、診察してもらいました。ステージ１の乳がんだと言われました。ガンは、しこりが３つあるため、左胸を全摘すると言われました。

「乳がん」「全摘」と、頭が真っ白になりました。

「胸が小さいため、片方とっても、左右の差はでない」とムリヤリ笑い話にしようと、なげやりな冗談を口にしましたが、すぐに涙がボロボロ出てきて、「怖い」「子どもが小さいから、今、死ぬわけにはいかない」と言ったのを覚えています。

すぐに手術日が決まり、全摘を覚悟しましたが、実は嫌でした。そんな時、親戚の人から良い病院があると紹介されました。セカンドオピニオンのつもりで、その病院を訪ねました。ここで同じ診断が下ったら、全摘手術を受け入れられる。そんな気持ちでした。

新しい病院の先生からは「部分切除で大丈夫だ」と言われました。救われました。なんだかんだありましたが、部分切除の手術は無事に終わりました。

一番、心を砕いて、悩んだのは、娘をどうするかということでした。

保育園に通っている娘のことを、フリッカのスタッフと何度も話し合い、施設に短期入所させることになりました。どんどん話が進む中で、納得行かない事が沢山ありました。「何も理解できない娘を、無理矢理、施設に入れるのは全て自分のせいだ」と思うと、悲しくて悲しくて仕方がありませんでした。でも「とにかく手術をして、元気になることが一番だ」と何度もスタッフと話し合い、納得していきました。

しかし、私の悪い癖で手術が終わったら、案外、元気だったので、娘と別れてまだ一週間しか経っていないのに「すぐに、迎えに行きたい」と言って、周りのスタッフを困らせました。その度に「まだ、早い」と何度も言われました。

その時の私には、スタッフを「鬼」だとしか思えませんでした。今、思えば、とても失礼なことですが、当時の正直な気持ちです。２ヶ月後、娘は、無事に帰って来ました。

まだまだ、二つの病気の治療は続いています。

「私には相談できる人と、居場所がある」

それは、とても幸せなことです。

私は、誰かに「相談」することが苦手でした。どうしても、自分の考えが一番で、いつも相談でなく「報告」ばかりを繰り返していました。

今、私が一人では、受け入れられない現実や、解決できない問題を「しっかりと話し合いをしてくれるフリッカのスタッフと仲間がいるんだ」と改めて、実感しています。

二つの病気や短期間、子どもと離ればなれになった事は、とても大変だったけど、今は感謝しかありません。

2002 年 4 月 23 日　第三種郵便物認可（毎月 3 回 5 の日発行）
2019 年 9 月 11 日発行　ＳＳＫＷ増刊通巻第 4901 号

■　入寮してよかった！！　■

えり

私はハウスに４年９ヵ月入寮していました。ずいぶんのんびりしちゃったけど、私にとっては必要な時間でした。入寮して２年くらいはグーグー寝て過ごしました。ハウスに来るまではジェットコースターの様な毎日をクスリを使いながらなんとか生きていたので、やっとホッとできる場所にたどり着いて安心したから、眠り続けたんだと思います。でも、何も考えたくなくて、何も見たくなくて、目を閉ざしているのが楽だったというのが正直なところです。眠っていたことで居続けられた部分もあったのかなと思います。

私にとってハウスで入寮することは、生きなおしをすることだったように思います。人とどのくらいの距離でいるのが安全なのかを教えてもらったり、練習したり。自分が思っていることを相手に伝えるのはこわいけど勇気を出して言ってみたり、言えなかったり。またその逆で、相手の気持ちを聞いて話し合いをすることなど。本当はもっと子供の時代とかにやるはずだった事をハウスでもう一度やり直してる感じがします。

ハウスにいる人はみんな優しくて、とても親切にしてくれました。私の顔を見て、困っている事に気付いてくれたり、悲しい顔やつらそうな顔をしてるからと言ってスタッフのところに連れて行ってくれたり、少し慣れてくると表情がやわらかくなったね、と変化に気付いてくれたり。緊張して体がこわばっていると、一緒にストレッチをしたり、肩や足をマッサージしてくれたりした事もありました。

ハウスの仲間と一緒にいるより、男の人といる方が楽だと思ってアッチコッチにふらふらしていた時も、「えりちゃん、こっちだよー」と声を掛けてくれたり、さりげなくそばに居てくれたりして仲間はいつも温かく見守っていてくれました。ハウスでいっぱい優しくしてもらえたから、人に優しくできるようになれたんだと思います。その後自分が仲間のサポートをするようになった時に、サポートしてくれた仲間に対して感謝の気持ちがいっぱいになりました。その気持ちを新しい仲間に返していけたらいいなと思っています。

ハウスに来るまでは１人でいる事がすきだし、１人でいる方がなんだか自由で自分らしくいられると思っていました。でも今は仲間の中でリラックスしている自分に気付いたり、自分では分からない事、気付けない事を仲間が教えてくれたり、仲間が自分の経験を話してくれて、共感できて安心したり、１人では考えられなかった事を一緒に考えてくれたり。人と一緒にいるからこそできる安心感を教えてもらいました。今では、仲間の中に居る方が自由だし自分らしくいられると思っています。

私は間違ってない、自分は正しいと思っていた時は人の事が許せませんでした。ある日、自分は間違ったり失敗したりしてるけど、仲間は何も言わず許してくれてたと知った時に、初めて人の事も自分の事も許せるようになりました。仲間は鏡だよと教えてもらった時に、自分がやっている事に気付いてビックリした事もありました。

相手に自分の気持ちを伝える時や、ミーティングで正直な話をする時に涙が止まらなくなる時があります。かっこ悪いし恥ずかしいんだけど、泣いてる自分をほめてくれたり認めてくれたり、今まで泣けなかった涙がいっぱいたまってたんだねと言ってもらえたりすると嬉しくて、安心してシクシク泣いていられるようになりました。

付き合っていた彼との関係や家族の事、借金の事など、何も解決しないままに入寮生活を始めました。今も解決しない事もあるけど、借金を少しずつ返し終えたなどクリアした事もあります。ここにいると今日一日を生きながら、ひとつずつ

2002 年 4 月 23 日　第三種郵便物認可（毎月 3 回 5 の日発行）
2019 年 9 月 11 日発行　ＳＳＫＷ増刊通巻第 4901 号

やっていけばいいと思えるようになりました。おじーちゃんが亡くなったり、愛犬が亡くなったり、心が動くような悲しい事もあったけど、ここで仲間の中にいたからクスリを使う必要なくやり過ごせたのだと思います。

スポンサーとスポンサーシップをとってもらっている内にスポンサーが私の事を受け入れてくれていると感じるようになって、話をした後はいつもホッとして安心した気持ちになります。スポンサーとは人と関係を深めていく練習をさせてもらっているんだなと感じています。

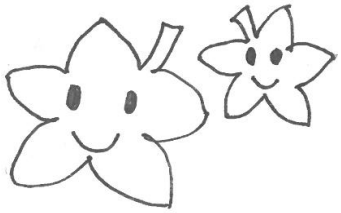
先日、宇都宮コンベンションに参加しました。その時にも思ったんだけど、私はこれからプログラムを使った生き方をして、自分が変わっていかないとすぐにまた昔の生き方に戻っちゃうし、このままじゃヤバイんだなと感じました。せっかく人と関係を深めていく機会が与えられているのに自分側の準備が出来て居ない感じがして、どうにかしなければ！と焦る気持ちになりました。

今また、長い間書きっぱなしでほっておいたステップ４の棚卸しの続きを書いています。これをもうすぐスポンサーに聞いてもらう予定です。こうやって、ここでステップを使いながら仲間に助けられ、支えてもらいながら、なるべく等身大の自分でいられるように生きていきたいなと思っています。

■Ｂ型日記■

「開設するする詐欺」と言われてしまった、リーブル工房のウェブショップ。ついに開設の準備が整いました。10 月 15 日にオープン（予定です）。

ダルク女性ハウスのウェブサイトからアクセスできるので、よろしくお願いいたします。



ウェブサイトには、このニューズレターを含む、バックナンバーや、最新のチラシなどもダウンロードできるようになっています。　ぜひ、一度ウェブサイトにもいらしてみてください。

ミシンのお手伝いをしてくださる方を募集しています。お心当たりの方は是非ご連絡下さい。また、使わなくなった着物やコットン、麻生地がありましたら、ご献品いただけると幸いです。。

献金・献品ありがとうございました！　（2019.3～ 2019.8）

宗形博子　相澤靖雄　下田晃子　ひがメンタルクリニック　石川亜弓　舟山智子
黒川奈菜子　鈴木かなよ　鈴木純子　浅井るみ　山田恵美　長友麻里　津高宏　米沢宏
角田崇子　南保輔　岩渕美和　サトウマキコ　白石光一　細川幸子　神谷節子
赤塚ゆり子　松田千恵　矢野聡　栗原節子　上田毅彦　和田妙子　高倉章子　丸山陽子
高田明子　上妻英正　生沼不二繪　ソノリテ　三重ダルク　聖クララ会修道院　清水妙子
五十公野けい　匿名希望２名　（敬省略　順不同）

★今後ともよろしくお願い致します。

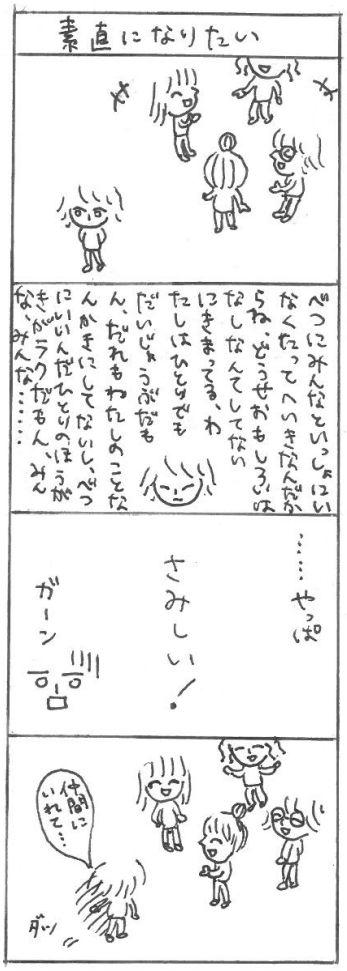
2002 年 4 月 23 日　第三種郵便物認可（毎月 3 回 5 の日発行）

2019 年 9 月 11 日発行　ＳＳＫＷ増刊通巻第 4901 号

NPO 法人ダルク女性ハウス賛助会員募集

- 年会費一口 2000 円（ニューズレター購読料を含む）頒価 1 部 100 円
- 郵便振替口座　００１４０−２−５９１６０９
- 他金融機関からの振込用口座番号　店番（０１９）　当座　０５９１６０９

＊ハウスのいちにち＊＊るね



■編集後記■

あっ！という間に夏が終わってしまい、なんだか夕暮れ時が特にさみしい今日この頃です。。。。。

９月５日〜９月８日には、自助グループのコンベンションに施設のみんなで行ってきました。お留守番組はおいしいランチを食べに行って来たようです。

私はコンベンションの方に行ってきましたが、やはり毎年、パワーと感動をもらって帰って来ます。みんな「来年も行きたいね！貯金しよう！」と、また目標ができました（＾＾）

ところで、11 月 15 日(金)１３時半から北区の地域づくり応援事業の助成を受けてダルク女性ハウス子育てセミナーを、王子の北とぴあで開催します。チラシはウェブサイトに掲載しています。ぜひご参加ください。

ダルク女性ハウス子育てセミナー
「生き辛さの中で、私たちが困っていること」
講師　信田　さよ子（原宿カウンセリングセンター所長）
とき　　２０１９年１１月１５日（金）１３時３０分〜
ところ　　北とぴあ　１４階スカイホール
（北区王子１−１１−１）ＪＲ京浜東北線下車２分
東京メトロ南北線王子駅下車直結
定員　　先着　１００名　（入場無料・申し込み不要）

発行人：157-0072　東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102

特定非営利活動法人　障害者団体定期刊行物協会

編集人：114-0014　東京都北区田端 6-3-18-301　特定非営利活動法人

ダルク女性ハウス URL:http://womensdarc.org/